

平成 26 年度厚生労働省科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）分担研究報告書

「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

研究分担者 平岡 崇 川崎医科大学リハビリテーション医学教室准教授

研究要旨

中国ブロックの平成 26 年度の活動としては、原則過去の活動方針を踏襲しており大きな変更点はない。中国ブロックとしての核となる活動として、本年度も下記のごとく 1 回/年の中国ブロック連絡協議会(以下 本協議会)と研修会を実施した。本協議会は、各県拠点機関職員および家族会代表者(オブザーバーとして行政担当者など)で構成されている。本協議会ならびに研修会は各県持ち回りで実施しており、本年度は山口県山口市で開催された。本協議会の場において、平成 27 年 2 月 19 日 20 日に東京で開催された全国連絡協議会ならびにコーディネーター会議での会議内容につき説明を行い、中国ブロックでも意思統一を図った。続いて、各県から報告をいただいた。本年度の会議においては、中国ブロック連絡協議会の存続の方策についての議題に多くの時間が割かれた。今後とも引き続き、高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に向け統一した大方針のもと全力で取り組むことが確認された。

A. 研究の目的

中国ブロックにおいて地域の特性を踏まえ高次脳機能障害者の社会参加支援を推進するために有効な方策を検討することを目的とする。

B. 研究の方法

- ① 各県の支援拠点機関を中心に実情に応じた社会参加支援を実施しその方法等につき検討を行う。
- ② 各県の支援実績や支援上の問題点などにつき、中国ブロック連絡協議会(1 回/年)にて報告することで情報の共有・分析を行い、より効果的支援につなげるための検討を行う。

(倫理面への配慮)

本研究は「ヘルシンキ宣言」ならびに「疫学研究に関する倫理指針」(平成 20 年 12 月 1 日一部改正)を遵守し実施する。得られた調査結果は本研究の目的のみに使用する。本研究結果の発表の際には個人の特定ができないよう万全の配慮をする。個人情報公開が必要な場合は、本人および家族の同意を書面にて行う。また本研究については随時参加撤回が可能である。

C. 研究結果

1. 中国ブロック連絡協議会の体制

厚生労働省「高次脳機能障害支援ネットワーク」研究班の指針に則り、各県拠点機関職員および家族会代表者(オブザーバーとして行政関係者)で委員を構成し、中国ブロック連絡協議会を組織した。本協議会の委員長には中国ブロック統括である平岡崇が、副委員長には、後藤祐之(福祉部門)・八木真美(医療部門)の両名が選任されている。

2. 中国ブロック全体での活動

①中国ブロック連絡協議会

日時：平成 27 年 3 月 7 日(土) 12:15~13:30

場所：山口県健康づくりセンター第 2 研修室(山口市吉敷下東三丁目 1 番 1 号)

②中国ブロック研修会

日時：平成 26 年 3 月 7 日(土) 10:00~16:30

場所：山口県健康づくりセンター(山口市吉敷下東三丁目 1 番 1 号)

(講 演)「みんなで取り組もう！高次脳機能障害—デイケアの形式を取ったグループ訓練—」

講 師 筑波記念病院 精神科医長 山里道彦 氏

座 長 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態分野准教授 松尾幸治 氏

(講 演)「高次脳機能障害者の支援について ～山口県の状況～」

講 師 特定非営利活動法人 キセキ 理事長 徳本武司 氏

(講 演)「子どもの脳機能障害 支援のポイント」

講 師 千葉リハセンター高次脳機能障害支援アドバイザー 太田 令子氏

座 長 山口県立こころの医療センター院長 兼行浩史 氏

(シンポジウム)「子どもの脳機能障害の支援について考える ～医療、福祉、教育の連携～」

シンポジスト 川崎医科大学附属病院 支援コーディネーター 八木真美 氏

広島県立障害者リハセンター作業療法士 川原 薫 氏

山口県立山口総合支援学校 教諭 木村彰孝 氏

アドバイザー 筑波記念病院 精神科医長 山里道彦 氏

千葉県千葉リハビリテーションセンター 太田令子 氏

コーディネーター 山口県立こころの医療センター副院長 加来洋一 氏

各県における活動実績

岡山県	
支援拠点機関	川崎医科大学附属病院 086-462-1111 社会福祉法人 旭川荘 086-245-7361
支援 Cd	言語聴覚士 1名 精神保健福祉士 1名
相談者数（12月末）	直接相談 来院／来所／出張 川崎 378件 電話／メール等 川崎 35件 間接相談 来院／来所／出張 川崎 14件 電話／メール等 川崎 31件 直接相談 来院／来所／出張 旭川 76件 電話／メール等 旭川 14件 間接相談 来院／来所／出張 旭川 3件 電話／メール等 旭川 70件
活動実績	①ワーキンググループの活動 （失語WG） ・失語症者に対する福祉サービス利用の調査（就労継続支援A型） ・失語症者を対象とした日中活動の実施（週1回） （小児WG） ・支援学校教員を対象とした研修会の実施 ・データ収集 学習の障害を引き起こす要因の検討 （医療WG） ・症例検討会の実施 6回 参加延べ人数 153名 （地域連携WG） ・県北地域における相談のあり方について検討 （精神科WG） ・高次脳外来において心療科、精神科医療機関との連携 （福祉WG） ・高次脳機能障害者（失語症）を受け入れている福祉施設への助言 ・真庭地域における高次脳機能障害者向けサービスの運営 ②研修会の開催及び協力 ・岡山県高次脳機能障害支援研修会及び岡山県リハビリテーション講習会の開催 ・地域や専門職団体の研修会への協力 ③当事者会活動への協力 ・各家族会活動への協力 ・工房かたつむりへの協力 ・岡山市自立支援協議会フォーラムにおいて情報発信の場を確保 ④調査・研究 ・高次脳機能障害学会等での発表 ・高次脳機能障害外来受診者の長期経過に関する検討 ・神経心理学的検査と運転能力評価ソフトを用いた脳損傷者の自動車運転能力の評価に関する検討

次年度の活動予定および課題など	<次年度の活動予定> ①普及・啓発に再度注力する中で、情報発信のあり方を見直し。 ②教育分野との連携を継続する。 ③医療・福祉・就労等に係る個別支援の継続実施。 ④小児の学習の障害を引き起こす要因、高次脳外来受診者の長期経過、自動車運転能力の評価について検討を継続。 ⑤各家族会との協力・連携 <課題> ①全県的な普及啓発がかつてに比べて滞っていること。 ②失語症者を対象とした日中活動の周知
-----------------	---

平成26年度高次脳機能障害支援事業実施状況（中国ブロック）

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
26年5月12日	高次脳機能障害実践的アプローチ講習会	支援者、当事者、200名	高次脳機能障害者のコミュニケーション行動の理解 種村 純
26年6月1日	草木舎講習会	当事者、家族、支援者 50名	高次脳機能障害者の支援 ～岡山県の支援とNさんの14年間～ 八木真美
26年6月5日	日本リハビリテーション医学会構造教育講演	医療関係者、500名	高次脳機能障害対応 脳梗塞による高次脳機能障害とその対応 平岡 崇
26年7月23日	日本赤十字看護大学 摂食・嚥下障害看護認定看護師講習会講義	医療関係者、30名	高次脳機能障害者における嚥下障害 平岡 崇
26年9月9日	おしゃべり会講習会	当事者、家族、支援者、100名	高次脳機能障害を理解するために～さまざまな症状を理解しよう～ 宮崎彰子
26年9月15日	ナースのためのリハビリ講座、高次脳機能障害	医療関係者、100名	高次脳機能障害とは 種村 純
26年9月20日	青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会	一般、支援者、100名	高次脳機能障害者の社会参加 平岡 崇
26年10月5日	平成26年度岡山リハビリテーション講習会	医療関係者、家族、支援者 100名	高次脳機能障害者の自動車運転と移動支援 蜂須賀研二、中山剛
26年11月3日	ナースのためのリハビリ講座、高次脳機能障害	医療関係者、100名	高次脳機能障害とは 種村 純
26年11月15日	高次脳機能障害研修会(中信地域)	医療関係者、当事者、200名	失語症者に対する社会支援 種村 純
26年12月17日	第3回指導主事パワーアップ学習会	教育関係者 30名	高次脳機能障害の理解と支援について 宮崎彰子 八木真美

27年1月29日	第25回 回復・維持期リハを考える会/第22回 熊本脳卒中地域連携ネットワーク研究会	医療関係者 500名	特別講演：脳卒中による高次脳機能障害の支援と連携 平岡 崇
27年1月29日	平成26年度岡山県高次脳機能障害支援研修会	医療・福祉・行政関係者 60名	岡山県、拠点機関職員、家族会会員
27年2月7日	高次脳機能障害者支援のための研修会	医療関係者、当事者、180名	失語症のある高次脳機能障害者の支援について 種村 純
27年2月8日	第1回京都リハビリテーション医学研究会学術集会		教育講演：脳外傷による高次脳機能障害の基本 椿原彰夫
27年2月14日	なるほど、なっとく、高次脳機能障害	支援者、当事者、200名	高次脳機能障害者にとってのコミュニケーション 種村 純
27年2月21日	旭川荘療育アカデミー	当事者、家族、支援者	講演 高次脳機能障害者の日常生活を支援するために 阿部順子 ほか
27年3月7日	中国ブロック研修会	当事者、家族、支援者	シンポジウム「子どもの脳機能障害の支援について考える～医療、福祉、教育の連携～」 八木真美

広島県		
支援拠点機関	広島県立障害者リハビリテーションセンター 広島県高次脳機能センター 電話番号 082-425-1455 【地域支援センター】 (広 島) 広島市立リハビリテーション病院 082-848-8001 (広 島 西) 廿日市記念病院 0829-20-2300 (呉) 呉中通病院 0823-22-2510 (広島中央) 井野口病院 082-422-3711 (尾 三) 尾道市公立みつぎ総合病院 0848-76-1111 (福山・府中) 脳神経センター大田記念病院 084-931-8650 (備 北) 三次地区医療センター 0824-62-6328	
支援 Cd	3 名（社会福祉士・精神保健福祉士、相談支援専門員、臨床心理士）	
相談者数（12 月末）	支援拠点相談対応延べ件数 2140 件 うち新規相談者延べ件数 188 件（当事者・家族 72 件 関係機関 116 件）	

活動実績	医療リハビリ（入院・外来） 院内家族セミナー（月2回開催 延べ 177名(12月末)） 高次脳機能障害研修会（年1回 160名） 地域の研修会への講師派遣 関係機関との連携会議の開催及び参画（43件中、小～大学校との連携7件、職業訓練校との連携6件、就労関係機関との連携(雇用事業所含む)13件、福祉関係機関との連携17件）
次年度の活動予定および課題など	<次年度活動予定> ・拠点施設機能の体制整備 評価、診断、リハビリ、相談支援、啓発活動の継続 高次脳機能障害者新病棟のスムーズな運営 ・地域支援ネットワーク活動 広島県高次脳機能障害連絡協議会の開催 地域支援センターとの連携 関係機関との連携（就労・就学・福祉・医療等） 家族会との連携 ・各種事業への参画 広島県及び東広島市自立支援協議会への参画 雇用関係会議等への参画 職業能力開発校委託訓練における高次脳機能障害者への支援 <課題> ・地域支援センターの機能強化及び連携強化 ・地域の社会資源の開拓（地域包括支援センター及び相談支援事業所との連携） ・小児への支援（発達障害児支援機関や教育機関との連携）

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
H26.4.23	あいサポート研修	障害者施設いくせい 20名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26.5.22	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10名	「高次脳機能障害とは」 川原薫
H26.8.21	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10名	「高次脳機能障害に対する作業療法評価」 花房萌子
H26.8.25	障害支援区分認定調査員現任研修	認定調査員 80名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26.8.26	東広島脳疾患治療講演会	医師 10名	「広島県高次脳機能センターでの抗てんかん薬の使用経験」 近藤啓太
H26.9.18	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10名	「神経心理学的検査結果の見方—知的機能」 澤田梢
H26.9.25	平成26年度中国四国身体障害者施設長会議内特別講演	障害者施設職員 50名程度	「高次脳機能障害へのリハビリテーション」 近藤啓太

H26.10.23	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10 名	「S Tで実施している高次脳機能障害の評価」 土肥洋子
H26.11.22	広島県リハビリテーション講習会	当事者家族、医療保健福祉関係者 160 名	「高次脳機能障害者の就労支援の現状」 障害者障害者総合センター 田谷勝夫 氏 「広島県の就労支援機関からの報告」 県立障害者リハビリテーションセンターあけぼの 百川 晃 氏 クラブハウス・シェイキングハンズ 山田 京子 氏 広島障害者職業センター 植木 康敬 氏 広島中央障害者就業・生活支援センター 梶川 和美 氏
H26.11.26	認知症サポーターフォローアップ研修	認知症サポーター，包括支援センター 40 名	「脳卒中後の認知症状のある方（高次脳機能障害者）のこころ」 澤田梢
H26.12.8	あいサポート研修	広島文化学園大学 学生 30 名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26.12.14	第 11 回広島脳卒中市民シンポジウム	一般市民、患者家族、医療保健福祉関係者 500 名	「高次脳機能障害とは」 村田芳夫
H26.12.16	あいサポート研修	熊野第一小学校 5 年生 80 名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26.12.25	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10 名	「神経心理学的検査結果の見方ー遂行機能」 澤田梢
H27.1.13	相談支援専門員現任研修	相談支援専門員 140 名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H27.1.26	府中町自立支援協議会	自立支援協議会メンバー	「障害のある人々の暮らしを地域で支える為に」 隅原聖子
H27.1.27	あいサポート研修	県庁職員	「高次脳機能障害について」 隅原聖子

島根県	
支援拠点機関	【県支援拠点機関】 島根県立心と体の相談センター（TEL0852-21-2885） エスポアル出雲クリニック（TEL0853-21-9779） 【圏域支援拠点】 （松江圏域）厚生センター相談支援事業所（TEL0852-60-0560） （雲南圏域）そよかぜ館（TEL0854-42-8011） （出雲圏域）エスポアル出雲クリニック（TEL0853-21-9779）

	(大田圏域) 亀の子サポートセンター (TEL0854-84-0273) (浜田圏域) 西部島根医療福祉センター (TEL0855-52-2442) (益田圏域) 相談支援事業所ほっと (TEL0856-31-5433) (隠岐圏域) 太陽 (TEL08512-2-5699)
支援 Cd	全県担当 1 名 (心理技術者) 圏域担当者 7 名 (精神保健福祉士、社会福祉士、相談支援専門員)
相談者数 (12 月末)	当事者/家族からの直接相談延べ件数 電話 654 件、来院/来所 1066 件、メール・書簡 157 件、その他 (訪問、出張、同行等) 323 件 機関・施設等からの間接相談延べ件数 電話 1102 件、来院/来所 197 件、メール・書簡 286 件、その他 (訪問、出張、同行) 128 件
活動実績	・ 7 圏域に相談支援拠点の設置し、各圏域でネットワーク会議、ケース検討会議、家族の集いを開催 ・ 支援機関職員を対象とした派遣研修の実施 (広島県立障害者リハビリテーションセンターに 2 名派遣) ・ 専門相談会の開催 (隠岐の島) ・ 新聞等を活用した広報 (山陰中央新報に県重点広報として掲載) ・ 研修会の開催 (全県、圏域単位) (県主催で小児の高次脳障がいテーマに研修会実施) (6 圏域において、圏域の課題に応じた研修会実施) ・ 高次脳機能障がい支援普及啓発リーフレットの作成・配布 ・ 島根県障がい者自立支援協議会高次脳機能障がい者支援部会において、今後の取り組みの方向性について検討 ・ 日本脳外傷友の会全国大会 2014 in しまねへの協力
次年度の活動予定および課題など	【活動予定】 ・ 圏域相談支援拠点を中心とした圏域単位での支援ネットワークを構築する。 ※ネットワーク会議、ケース検討会議 (各 4 回程度) を圏域毎に開催 ・ 新聞等を活用した広報 ・ 研修会の開催等 【課題】 ① 拠点施設、ネットワーク整備 ・ 圏域相談支援拠点におけるアセスメントの充実、専門性の確保 ② 人材育成・普及啓発 ・ 一般的な普及啓発研修の充実及び支援関係者 (相談支援、就労支援、教育、介護事業所) の資質向上 ・ 小児高次脳機能障がいの支援 ・ 地域住民の障がいに対する理解の向上 ③ 医療と福祉の連携 ・ 圏域相談支援拠点と医療機関との連携の充実

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
H26.4.4	施設職員研修 (厚生センター相談支援事業所)	施設職員 10 人	講義「高次脳機能障がいの理解」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H26.5.2	地域活動支援センター施設職員 研修(亀の子サポートセンター)	施設職員 18 人	講義「高次脳機能障がいの理解」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏

H26.7.6	第7回しまね高次脳機能障害研究会 (しまね高次脳機能障害研究会)	支援関係者 75人	テーマ「障害特性とリハビリテーション」 基調講演「高次脳機能障害と発達障害」 講師 国立障害者リハビリテーションセンター病院 臨床研究開発部長 深津玲子 氏 座長 エスポアール出雲クリニック 院長 高橋幸男 氏 事例検討会
H26.7.7	特別支援教育校内研修会 (大田市立久手小学校)	学校教員 23人	講義「子どもの高次脳機能障害について」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H26.7.15	隠岐圏域高次脳機能障害者支援研修会 (太陽)	圏域ネットワーク 構成員・教育機関の 関係者 21人	講義・事例検討会 「小児の高次脳機能障害について」 講師 東部島根医療福祉センター 言語聴覚士 山崎佳史 氏
H26.8.2	平成26年度島根県高次脳機能障害者支援研修会(東部島根医療福祉センター・島根県)	行政・保健・医療・福祉・教育関係者・当事者・家族 140人	講演「子供の高次脳機能障害と発達障害について」 ～発達に沿って支援を考える～ 講師 千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援アドバイザー 太田令子 氏 事例紹介 座長 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H26.8.23	益田圏域高次脳機能障害者支援研修会 (相談支援事業所ほっと)	圏域ネットワーク 構成員・障害福祉事業 所職員・当事者・家族 30人	講演「高次脳機能障害者の自立へのアプローチ」 講師 みなくるはうす光 施設長 徳本武司 氏
H26.9.11	ヘルパー研修会 (厚生センター相談支援事業所)	ヘルパー 55人	講演「高次脳機能障害の理解～支援の実践のために～」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H26.9.16	ボランティア研修会 (厚生センター相談支援事業所)	市社協ボランティア 25人	講演「高次脳機能障害について」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H26.9.19	施設職員((社)隠岐共生学園たまゆの杜)研修会 (厚生センター相談支援事業所)	施設職員 22人	講演「高次脳機能障害の理解について」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H26.9.19	雲南圏域高次脳機能障害者支援研修会 (そよかぜ館)	相談支援事業所職員・市町村担当者 21人	講演「高次脳機能障害者への支援」 講師 高次脳機能障害サポートネットひろしま 理事長 濱田小夜子 氏
H26.9.26	松江圏域高次脳機能障害者支援研修会 (厚生センター相談支援事業所)	圏域内福祉関係者・教育関係機関・医療機関 103人	講演「高次脳機能障害の基礎知識」 講師 松江青葉病院 院長 妹尾晴夫 氏 事例発表「デイケアあおぼの活動」 発表者 松江青葉病院 PSW 仲西秀之 氏
H26.10.8	施設職員(ふれあい五箇)研修会	施設職員 20名	講演「高次脳機能障害について」 講師 エスポアール出雲クリニック

	(太陽)		院長 高橋幸男 氏
H26.10.22	日本脳外傷友の会 第14回全国大会 ボランティア説明会 (脳外傷友の会らぶ)	島根大学・島根県立大学 学生 14人	講演「高次脳機能障がいについて」 講師 心と体の相談センター 主任精神保健福祉士 佐藤寛志 氏
H26.10.22	日本脳外傷友の会 第14回全国大会 ボランティア説明会 (脳外傷友の会らぶ)	地域住民 16人	講演「高次脳機能障がいについて」 講師 心と体の相談センター 主任精神保健福祉士 佐藤寛志 氏
H26.10.24	日本脳外傷友の会第14回全国大会 201 in しまね 高次脳機能障がい者支援コーディネーター研修会 (日本脳外傷友の会)	高次脳機能障害相談支援コーディネーター及び希望者 82名	講演 「地域における高次脳機能障がい者支援の取組(島根モデル)」について 講師 島根県支援コーディネーター 土江啓悦 氏 シンポジウム 座長 島根県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H26.10.25	日本脳外傷友の会第14回全国大会 2014 in しまね (日本脳外傷友の会第14回全国大会実行委員会、日本脳外傷友の会)	当事者、家族、支援関係者等 419人	高次脳機能障害に関する国の支援 厚生労働省職業安定局 障害者雇用専門官 名倉彰子 氏 文部科学省初等中等教育局 発達障害支援専門官 中山恭幸 氏 国土交通省自動車局 被害者保護企画調整官 小守谷昌利 氏 基調講演1 「脳機能の回復と自己実現」 講師 島根大学 学長 小林祥泰 氏 基調講演2 「高次脳機能障害とともに地域で生きる」 ～脳損傷者のリカバリーへの道と支援～ 講師 エスポアール出雲クリニック 院長 高橋幸男 氏 シンポジウム「ともに生きる」 当事者家族の発表 座長 松江青葉病院 院長 妹尾晴夫 氏
H26.10.30	出雲圏域高次脳機能障がい者支援研修会 (エスポアール出雲クリニック)	圏域内介護保険・相談支援事業所職員 37人	講演「なんでも聞きたい失語症」 講師 松江総合医療専門学校 言語聴覚士科 学科長 原 順子 氏
H26.11.17	雲南圏域高次脳機能障がい者支援研修会 (そよかぜ館)	雲南圏域の幼稚園、保育所職員・保健師等 38人	講演 「子どもの高次脳機能障がいと発達障がいについて」 講師 東部島根医療福祉センター 言語聴覚士 山崎佳史 氏 助言者 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H26.11.29	大田圏域高次脳機能障がい者支援研修会 (亀の子サポートセンター)	圏域内の支援機関関係職員 56人	講演 「子どもの高次脳機能障がいと発達障がい～障がい特性を考える～」 講師 鳥取県立総合療育センター セラピスト 北原 侑 氏 事例紹介 鳥取県立総合療育センター 言語聴覚士 伊藤洋平 氏

H26.12.6	平成 26 年度島根県高次脳機能障がい者支援研修会 (西部島根医療福祉センター・島根県)	行政・保健・医療・福祉・教育関係者・当事者・家族 114 人	講演 「小児の高次脳機能障害と発達障害 ～これってどっち～」 講師 西部島根医療福祉センター 脳神経小児科 医長 大野貴子 氏 事例紹介 「子どもの高次脳機能症がいと発達障がい」 座長 島根県浜田児童相談所 所長 宮廻陽吉 氏
H27.2.15 (開催予定)	第 8 回しまね高次脳機能障害研究会(しまね高次脳機能障害研究会)	支援関係者等 100 名	講演 「高次脳機能障害者の日常生活を支えるコツ」 講師 岐阜医療科学大学 教授 阿部順子 氏 座長 エスポアール出雲クリニック 院長 高橋幸男 氏 事例検討会

山口県	
支援拠点機関	地方独立行政法人山口県立病院機構 山口県立こころの医療センター
支援 Cd	石原 弥生 川上 真由子 倉田 珠恵 正司 明美
相談者数(12 月末) 2014 年 4 月～12 月	直接相談 281 件 間接相談 324 件
活動実績	・支援会議(主催/共催、協力) ・連携会議(主催、協力) ・研修会講師派遣 ・やまぐちリハビリの会：(6 回/年間開催) ・支援ボランティア養成のための大学とのコラボレーション演習 ・医療機関対応状況把握のための聞き取り調査 ・認知機能向上のための学習会・交流会主催 (高次脳機能障害、若年認知症の当事者交流及び家族会) ・「高次脳機能障害支援センターだより」発行
次年度の活動予定および課題など	【活動予定】 ・普及啓発のための研修会開催 ・専門職のためのスキルアップ研修会開催 ・連携会議開催 ・当事者、家族のための交流会 ・医療機関との連携強化のための聞き取り調査 【課題】 ・認知リハ実施機関の開拓、強化 ・小児高次脳機能障害者の普及啓発や支援体制の強化 ・相談支援機関におけるアセスメントの充実、専門性の確保

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
-----	------------	-------------	---------------

鳥取県	
支援拠点機関	鳥取大学医学部附属病院（脳神経外科高次脳機能外来）
支援 Cd	1 名（精神保健福祉士）
相談者数（12 月末）	拠点機関 相談対応延べ件数 414 件（当事者・家族、医療機関・行政等） 家族会 相談対応延べ件数 310 件（当事者・家族、医療機関・行政等）

平 26 年 6 月 9 日 平 26 年 6 月 16 日 平 26 年 6 月 23 日 平 26 年 6 月 30 日 平 26 年 7 月 27 日	ソーシャルワーク演習Ⅰ 山口県立大学とのコラボ 演習	社会福祉学部学生 75 人	高次脳機能障害について プログラム企画演習 講師：川上 真由子 倉田 珠恵 正司 明美 石原 弥生
平 26 年 9 月 4 日	MSW 勉強会	宇部圏域の MSW 20 人	事例検討会 社会資源調査 講師：正司 明美
平 26 年 10 月 5 日	高次脳機能障害インター ク研修会	相談業務従事者 42 人	高次脳機能障害インター ク研修会 講師：瀧澤 学

活動実績	<拠点の活動> ・診断・評価・治療（病棟・外来） 高次脳機能障害専門外来設置(2006 年より) ・相談支援 ・高次脳機能障がい支援者研修会の開催（9 月、1 月） ・地域の支援機関に対して、講演による啓発 <家族会の活動> <table border="1" data-bbox="523 465 1327 743"> <tr> <td data-bbox="523 465 683 658">啓発活動</td><td data-bbox="683 465 1327 658"> ・定例会の開催（県内 3 地区） ・会報の発行 ・高次脳機能障害啓発講演、発表 ・文化活動 ・地域づくり活動への参画 </td></tr> <tr> <td data-bbox="523 658 683 743">相談事業</td><td data-bbox="683 658 1327 743"> ・電話や訪問による相談活動 ・相談センターでの相談 </td></tr> </table>	啓発活動	・定例会の開催（県内 3 地区） ・会報の発行 ・高次脳機能障害啓発講演、発表 ・文化活動 ・地域づくり活動への参画	相談事業	・電話や訪問による相談活動 ・相談センターでの相談
啓発活動	・定例会の開催（県内 3 地区） ・会報の発行 ・高次脳機能障害啓発講演、発表 ・文化活動 ・地域づくり活動への参画				
相談事業	・電話や訪問による相談活動 ・相談センターでの相談				
次年度の活動予定および課題など	<次年度の主な活動予定> （１）拠点 ・外来創設時より受診経過のある方へのフォロー、神経心理検査などによる再評価 ・実務者に対する高次脳機能障がいに対する研修会 （２）家族会 ・相談支援活動、定例会等の開催 ・地域づくり活動への参画 ・生活支援研修会の開催 <課題> ・医療機関・施設への障害、制度の理解 ・相談支援後の家族を含めた患者さんへのフォロー ・認知療法など精神的なケアの場の必要性 ・地域（圏域）ごとの支援体制の強化と支援者間のつながり ・医療機関・支援機関の理解にばらつきがある→すべての医療科に理解が必要。 ・子どもの高次脳機能障がいの対応が不十分→教育関係者との学習・話し合い ・子ども、高齢者、女性問題、生活困窮、権利擁護など、家族全体の生活支援に対応できる相談機関の設置。安定した専門支援ネットワークの構築。				

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
平成 26 年 4 月 16 日	米子市 YMC A 医療専門学校主催の研修会	学生 40 人	「高次脳機能障害と家族への支援」 講師：鳥取県高次脳機能障害者家族会 会長 森田多賀枝氏
平成 26 年 7 月 2 日	平成 26 年度第 1 回高次脳機能障がい支援普及事業関係者連絡会	医療機関、障がい福祉サービス事業所、	①情報提供 高次脳機能障がい者支援拠

	(主催：鳥取県)	市町村、高次脳機能障害家族会、高次脳機能障がい者支援拠点機関等 23 人	点機関と家族会の活動紹介 ②意見交換 ・関係機関との連携方策 ・関係機関相互の情報提供方法
平成 26 年 7 月 3 日	北栄町精神障害者家族会主催の研修会	会員・支援者 30 人	「高次脳機能障害と家族会の活動」 講師：鳥取県高次脳機能障害者家族会 会長 森田多賀枝氏
平成 26 年 7 月 19 日	高次脳機能障害講演会(主催：家族会)	会員・一般 70 人	①「当事者との接し方」 国立成育医療研究センター・リハビリテーション科医長 橋本圭司氏 ②「対談 当事者が伝えたいこと」 ③「住み慣れた街でいきいきと暮らす」 社会福祉法人・地域（まち）でくらす会 理事長 井上徹氏
平成 26 年 8 月 22 日	伯耆町人権セミナー	一般 50 人	「高次脳機能障害者と共に生きる」 講師：鳥取県高次脳機能障害者家族会 会長 森田多賀枝氏
平成 26 年 9 月 20 日	平成 26 年度第 1 回高次脳機能障がい支援研修会 (主催：鳥取県、支援拠点)	教育、医療福祉関係者、当事者ご家族など 88 人	講演：「高次脳機能障害の夫との 10 年～最近考えること～」 講師：柴本礼氏
平成 26 年 10 月 15 日	鳥取大学医学部保健学科公衆衛生看護学実習の一部（主催：鳥取県）	鳥取大学医学部保健学科学生等 5 人	「高次脳機能障害と家族への支援」 講師：鳥取県高次脳機能障害者家族会 会長 森田多賀枝氏
平成 26 年 11 月 20 日	平成 26 年度第 2 回高次脳機能障がい支援普及事業関係者連絡会	医療機関、障がい福祉サービス事業所、市町村、高次脳機能障害家族会、高次脳機能障がい者支援拠点機関等 14 人	①事例検討・意見交換 ②情報提供 高次脳機能障がい者支援拠点機関と家族会の活動紹介
平成 26 年 12 月 2 日	精神保健講演会（主催：鳥取市）	当事者、御家族、支援者など 10 人	講演「高次脳機能障がいについて」 講師：鳥取大学医学部脳神経外科教授 渡辺高志氏
平成 27 年 1 月 24 日	平成 26 年度第 2 回高次脳機能障がい支援研修会 (主催：鳥取県、支援拠点)	教育、医療福祉関係者、当事者ご家族など 定員 200 人	①「障害者手帳とは？」 鳥取県西部総合事務所福祉保健局障がい者支援課精神保健担当主事 山岡章氏 ②「障害年金制度の仕組みと実務」 おんだ社会保険労務士事務所社会保険労務士 音田大志氏 ③「介護保険サービスの利用に

			ついて」 米子市福祉保健部長寿社会課介護保険料係 係長 富田隆氏 ④「自賠責・任意保険について（人身事故を中心に）」 三井住友海上火災保険株式会社 米子保険金お支払センター 所長 高木圭氏
平成 27 年 2 月 5 日	平成 26 年度高次脳機能障がい支援者意見交換会 (主催：鳥取県)	医療機関、市町、障がい者地域生活支援センター等	高次脳機能障がいコーディネーターによる活動紹介及び意見交換（医療と地域の連携について）

D. 考察

本年度の会議においては、各県の実情に応じた活動が概ね順調に行われていることが確認された。このことは本研究の深化を証明するものであり、本研究事業の有用性が示されたものと考え。また、平成 26 年度をもって、厚生労働省科学研究「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」が終了することにより、例年通りに本協議会を実施するための予算の確保が困難となるため、中国ブロック連絡協議会の存続の方策についての議題に多くの時間が割かれ、多くの意見が出され活発な意見交換が行われた。この点については課題の性質上、当日の会議の場においての結論が出されることはなかったが、何らかの方法で協議会を継続開催する方向の結論が導き出された。この点については、高次脳機能障害者の社会参加支援の推進といった観点からは、ブロック全体で事業の重要性が認識されているといった点で、成果が着実に上がっている証左を示すものであると考える。

今後も予算的には厳しい状況が予測されるが、中国ブロックでの活動を着実に継続し、各県からの情報を統合し検討することで更なる高次脳機能障害者の社会復帰支援の質の向上に寄与できるものと考え。

E. 結論

中国ブロックとしては、本年度も効果的な活動が行われ、支援の質・量とも年々向上していることが確認された。しかし、まだまだ問題は山積しており、引き続き解決に向けた努力が必要であるとの結論に至った。